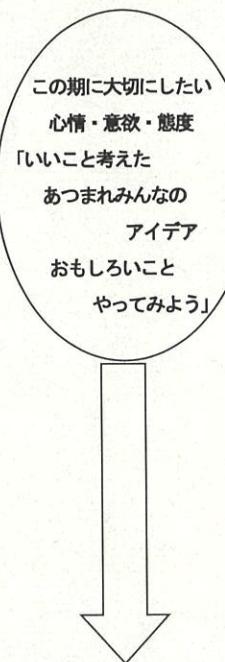


最近の子どもたちの姿（）は幼稚期の終わりに育つてほしい10の姿

- 生活面では、一日の予定表や時計を見て、生活に見通しをもちらながら、自分達で進んで行動できるようになっていく。片付けの時間になると、友達と声をかけ合って遊びの場を片付け出したり、翌日もすぐに遊びの続きをができるように、丁寧に使う道具や作った物の整理整頓をしたりする姿が見られる。毎日の当番活動や、グループで取り組む掃除当番にも意欲をもち、簪やちりとり等の役割分担を話し合って決めたり、小さな汚れやホコリを見つけて、力を合わせてきれいにしたりするなど、自分の仕事を楽しみにしながら当番活動に取り組んでいる。その中で、友達のしていることにも目を向けて、考えを伝え合いながら協力しあう姿から、園生活を自分達の力で進めているうううする意欲が、より増していると感じられる。（健、協、自立、社）
- さら粉や泥団子作りの遊びから、さらに細かくサラサラにするための方法をじっくりと考え、道具の使い方の工夫をしたり、何回やってもひびが入ってしまう泥団子作りを成功させるために、土の性質を活かした方法や水加減、日当たりなどの天候の具合を見ながらテラスに置いて様子を見たりするなど、一人一人が疑問や課題だと思ったことに対して、時間をかけながら試行錯誤を繰り返し、遊びを深めている。また、自分の泥団子を固く光沢が出るまで磨いたり、木枠などで作った転がし装置で、壊れずに転がり落ちるか確かめたりして遊ぶ姿もみられる。こうしたことをお話タイムで伝え合い、友達同士で他にどのような方法ができるかを考えたり、教え合ったりする姿がみられる。また、工夫して作った物を活かしてチョコレート屋さんやクッキー屋さんをするなど、友達と一緒に遊びの場を作り、協力しながらごっこ遊びに発展する姿が増えている。様々な材料を活かして作る、チケットを作って配る、お客様が来たときの接客をするなど、やりたいことを話し合って役割分担を決めながら取り組んでいる。チケットをポイント制にしたり、ドングリやイヌマキなどの自然物を取り入れて、工夫したチョコレートやクッキーを作ったりなど、それぞれの発想を互いに受け入れて、遊びの場を楽しくしようと工夫する姿がみられる。（思、自立、協同、言、感）
- 「綱跳びの後ろ跳び30回」「あや跳び10回」など自分のできるようになりたいことをめあてにし、繰り返し挑戦している。自分で決めためあてを達成するまで、諦めない粘り強さがみられる。その中で、友達とコツを教え合ったり、友達の姿を応援したりして、互いに励まし合いながら取り組んでいる。いろいろな技ができるようになると、「綱跳び鬼ごっこ」という遊びを考えて、ルールを作りながら集団で身体を動かして遊ぶ姿も見られるようになら、サッカーなどのボール遊びでも、チームで対抗戦をして、人数調整を自分達で考えたり、勝ったための作戦を考えたりする姿がみられ、力を合わせて頑張ろうという思いも共有している。（健、自立、協、道、言）
- 身近な生き物への興味関心が継続しており、これまでコオロギやトノサマバッタを飼育する中でわかったことを友達にも伝えようと思い、「しんぶん」として画用紙に絵などで表したり、生態や育て方を図鑑で調べたことが本当かどうか、実際に飼育しながら試したりしている。友達と一緒に不思議を感じたり、気付いたり感じたりしたことと共にしながら、生き物に心を寄せる姿がみられる。（健、協、道、自然、思、数、言、表）
- 友達関係では、気の合う友達以外でのかかわりでは、自分の気持ちを我慢してしまったり、思うことはあっても話すことに躊躇したりする子どももいるが、一緒に協力したり、話し合ったりする中で、思ったことや考えたことを素直に言葉で伝えることができるようになっている。特に、学級全体で話し合う場面で思ったことや考えたことについて、自分から話そうとする子どもも増えてきつつある。（協、道、言葉）



期の生活のねらい

- 生活の中で、自分なりの考えを出しながら試行錯誤を繰り返し、達成感や充実感を味わう。
- 友達と互いの考えを出し合いながら、協力して生活を進めていく楽しさを味わう。
- 友達と一緒に、新しいことや少し難しいことにも挑戦しようという共通のめあてをもち、いろいろな活動に取り組む。

期の期待する姿・教師の願い

- 「いいこと考えた あつまれみんなのアイデア おもしろいこと やってみよう」の姿
- ・自分なりのめあてをもち、難しさを感じることにも挑戦したり繰り返し取り組んだりしながら主体性を発揮する姿。
- ・身近な自然物や物事に興味や関心をもってかかわり、自分なりのやり方を試したり、友達に伝えたりしながら新しい発想や方法を遊びに取り入れ、遊びを継続しようとする姿。
- ・遊びの中で新たな発想が生まれたり、友達の発想に触発されて自分もやってみようしたりする姿。
- ・友達の思いや考え、工夫を受けとめたり、その思いを共有して自分の遊びにも取り入れたりして遊びの姿。
- ・友達の頑張る気持ちや良さに気付いて友達を認めたり、自分も友達に認められたりする喜びを感じながら遊びの姿。
- ・友達と同じめあてに向かって活動する中で、一緒に考え話し合ったり、役割分担をして協力したりすることの大切さに気付いていく姿。

この期では、自分のやってみたいことや興味関心がある遊びに意欲的に取り組み、自分なりの方法や発想を試して遊びを継続しようとする意欲や、困難なことや難しいことにも試行錯誤しながらも、諦めずに最後までやりきろうとする気持ちを育てたい。そこで、友達とを考え合ったり役割分担をしたりして協力する経験を積み重ねることを通して、自分らしさや思いが素直に伝えられるようになり、お互いの良さを認め合う喜びを感じたり、友達と協力しながら同じめあてに向かう充実感を味わったりしてほしい。

そして、学級のみんなで一つのめあてに向かってやり遂げようとする一人一人の意欲を育てたい。この期では、こどもまつりや生活発表会などの集団の力で作り上げていく活動があり、そこへ向かっていく中でも自分なりに考えたり工夫したりする経験をしてほしい。また、友達の考え方や工夫を自分の遊びに取り入れたり、友達と力を合わせたりすることで、遊びが発展していくおもしろさや自分の良さだけではなく友達の良さも感じる経験を積み重ねてほしい。年少児と遊び中でも、優しさをもってかかわりながら、年長として自信をもち、意欲的に行行動する充実感を味わってほしい。

環境構成と教師の援助

- ・めあての実現に向かって、友達と一緒に疑問に思ったことや難しいと思うことにも繰り返し向かったり、発想や工夫を出し合い、役割分担をしながら、根気強く取り組んだりする姿をしっかりと価値付け、さらなる意欲や自信につながるようにする。
- ・学級で共有する活動の時間などを通して、一人一人の発想や友達と一緒に工夫したことや探究したことを取り上げる。この中で、「おもしろそう。やってみたい。」「自分だったらこんなふうに考えているよ。」など、互いに触発され次への遊びへ向かう原動力が生まれ、「もっとこんなことができそうだね。」と次への追求に向かう具体的なめあてをもてるような話し合いができるよう支える。
- ・友達と考えや思いの違いを感じたり、相手の思いに気付いたりできる場面を大切にすることで、一人一人が素直な思いを表出し合い、その上で、友達と一緒にめあてや解決に向かうためには、どうしていくといいかを考えていけるように支える。また、学級のみんなで共有する時間では、葛藤する姿を取り上げることで、友達に受け止めてもらう安心感や嬉しさを感じたり、学級の仲間としての所感を深めたりできるようになる。
- ・自然物や空き箱、段ボールなどの素材など、子どもが自分の発想を広げて遊び中で、じっくり選んだり、探したりしながら工夫して取り入れができるよう、設置の仕方に工夫する。
- ・自分なりに考えためあてを記入するカード（チャレンジカード）を用意することで、向かうめあてが明確になり、自分が今できることを自覚したりしながら、意欲をもって向かえるようにする。（めあてが出来るようになったらシールを貼り、新たなめあてを自分で決める）
- ・こどもまつりや生活発表会などの行事を、子ども達が自分達でつくりあげていくものとして捉えられるように、向かっていく過程の中で考えやアイデアなど積極的に子ども達に投げかけ一人一人の思いを丁寧に受けとめていく。その中で、言葉で積極的に表現する子どもだけでなく、周りの子ども達にも問い合わせ、学級の一人としての気持ちをもったり、安心して思いを表現できる雰囲気をつくったりできるようになる。
- ・子ども達の新しい発想や遊びの経験などを写真や絵、図などでわかりやすく掲示し（ポートフォリオ）、遊びを振り返ってそのおもしろさや発想の豊かさを改めて感じて自信がもてるよう、友達の発想を知り、「自分だったらどうしようかな。」と自分なりの方法も考えやってみようとする意欲が継続するようになる。
- ・ごっこ遊びや集団のルールのある遊びをしている子どもたちが、同じ遊びの場で集まって話し合っている様子を見守り、少人数の中で自信をもって自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりし合う経験を積み重ねていけるようになる。必要に応じて、子どもの言葉をつなげて代弁したり、話し合いの内容を整理したりして、共通のめあてに向かって考えようとする姿を支える。
- ・友達とのかかわりでやめてほしいことや困ったことがあった時には、子どもの気持ちを受け止めながら、いろいろな友達とかかわる力を育むための大切な場面と捉え、自分の言葉で気持ちを相手に伝えられるように支える。遊びの中でトラブルが起きた時は、自分たちで解決しようとする姿を見守りながら、様子を見て教師が仲立ちとなり、相手の思いに気付いたり、気持ちを伝え合ったりしながら解決できるようにしていく。
- ・自分達の遊びで感じたことや発見したことを伝え合ったり、遊びの工夫や考えを出し合ったりするおはなしタイムでは、次の遊びへのめあてや意欲をもつききっかけとなったり、自分の良さだけでなく友達の良さも感じたりできることを大切にする。そして、その子ならではの遊びや表現を取り上げることで、一人一人の個性の大切さを感じられるようにしていく。
- ・一日の生活の流れや、週の予定などをわかりやすく掲示することで、子ども達が見通しをもって生活したり、活動に必要感をもって取り組んだりできるようになる。

5歳児そら組 活動構想（9期）

主な活動 ○ねらい ・経験している内容・経験してほしい内容

環境の構成と教師の援助 □環境の構成 ・共感する、見守る ○意味付け ☆価値付け =力付け

人間関係

⇒友達と試行錯誤を繰り返しながら、こどもまつりに向かって遊びを楽しむ姿を捉え、子どもの感じたことや気付き、驚きに共感し、次にどのように遊びに取り入れていくのかを見守りながら、探究に向かう姿へと力付ける。

□試行錯誤しながら遊んでいる場面で、その工夫に必要な使い道具（雨傘、塩ビ管など）を複数用意しておく。また、ごちそう作りなど、細やかな手作業ができるようなスプーンやヘラ、型抜きも用意する。

⇒泥団子コースや泥団子が壊れやすい、作り方がわからない、すぐに失敗する等の困難さに出会っている場面では、教師も一緒にどうすればいいのかを考えたり、子どもがいろいろな方法を思いつきながら解決することができるよう、問い合わせをしたりして支え、その過程での子どもの発想する力や粘り強く取り組もうとする経験を大切にする。

⇒○学級全体で目的に向かって取り組む中で「友達と一緒にだから、もっと遊びがおもしろくなる」と意欲的に活動に向かえるように、友達とのかかわりや価値に気付けるようにする。

○ことり組の友達と触れ合う場面では、自分たちが年長だという自覚や年下の友達に優しく接することの大切さに気づくように見守りながら、支える。

⇒前期間程の交流では、かかわりがスムーズにもてるよう支える。また、そこで感じたことや発見したことが、子どもたちの憧れや自分のめあてになるように支える。

土、砂、泥の遊び

○遊びをおもしろくしようと発想を広げ、土、砂、水の性質を活かして、工夫したり、試したりして遊ぶことを楽しむ。

○友達と一緒に発想を広げて、協力し合いながら取り組み、追求して遊びを進め。

○泥団子場や築山でやりたいことにじっくりと取り組み、必要な材料や用具を組み合わせて思う存分に遊びを楽しむ。

- ・土や砂の性質を活かして、泥団子作りに取り入れ、試行錯誤しながら遊びを進める。
- ・築山の泥団子コースや、雨傘を使って高さや深さのある転がし装置を、発想を広げて工夫して作る。
- ・チョコレートやクッキー等、様々な性質の土や砂を活かして工夫して作る。
- ・友達と一緒にどうやっておもしろくしていくかと相談したり、共通のイメージをもちながら役割分担をしたりして、遊びを展開していく。

ごっこ遊び

○友達と一緒に段ボール等の素材を使って遊びの場を構成したり、毛糸や空き箱などを使ってイメージしたものをつくり、役割分担しながら協力して遊ぶことを楽しむ。

○イメージを広げて役割を決めて、なりきって遊んだり言葉のやり取りを楽しんだりする。

- ・友達と一緒に新しい発想を伝え合い、アイデアを実現させようとする。
- ・友達と一緒に「見る人」「作る人」「呼び込む人」等の役を決めて、イメージを共有して遊ぶ。
- ・様々な素材（自然物、空き箱等）を使って、遊びに必要なものを工夫して作る。
- ・ツリーハウスやテラス等のお気に入りの場所を拠点にし、遊びに必要な素材を探して作って遊ぶ。

こどもまつり

○こどもまつりを楽しみにしながら、友達と一緒にイメージを共有し、作ったり描いたりなど共同して遊ぶ。

○様々な素材を遊びの中に取り入れながら、試行錯誤を繰り返し、友達と一緒に遊びを工夫する。

- ・友達と考えを出し合って、やりたことを試したり、よりもしくしようと思ひを広げたりする。
- ・自分たちで役割分担を決めながら、おまつりの遊びの場を盛り上げたり、お客様が楽しめるようなアイデアを友達と考えたりする。

異年齢とのかかわりを楽しむ

○ことり組の友達と一緒に遊び中で、遊び方を教えたり優しく言葉を交わしたりしてかかわりを深める。

- ・ごっこ遊びやこどもまつりの活動でそれぞれの遊びの場を行き来し、ことり組の友達へ優しく接したり、遊び方を教えてたりしてかかわる。

前期間程とのふれあい（わいわいランド）

○わいわいランドで一年生と交流し、学校の様子を感じたり、親しみの気持ちを持ちながらふれあいを楽しんだりし、一年生への懼れや期待感をもつ。

体を動かす遊び 集団ゲーム遊び

○自分なりのめあてをもち、繰り返し繰り返し挑戦する。

○友達と一緒にルールを考えたり、相談したりして遊び方を工夫する楽しさを味わう。

○友達と一緒に体を動かして遊びながら、応援したり、やり方を教えてもらったりして力を合わせることを楽しむ。

○ルールのある遊びを通して、勝ち負けを経験したり、ルールを守ることの大切さに気づいたりする。

- ・「できるようになりたい」という意欲や「ここまでできた」という充実感を味わいながら、繰り返し挑戦する。
- ・何回挑戦したか、何回できたかを数えたりしながら、自分なりのめあてに粘り強く挑戦する。
- ・遊びのルールなど友達と一緒に考えたり、おもしろくするための遊び方を出し合ったりして作戦を練りながら遊ぶ。
- ・友達と誇り合い、いろいろな友達の思いを汲み取ったり、良さを感じたりしながら遊ぶ。
- ・勝った負けたりすることで、喜びを味わったり、友達と力を合わせる喜びを感じたりする。
- ・友達とうまくいく方法やうまくいかなかったらどうしたらいいかを考え、繰り返し挑戦する。

当番活動・友達と一緒に生活を進める

○生活の流れに見通しをもちながら、友達と一緒に生活を進める。

○時計を意識しながら、活動の見通しをもって行動する。

○グループの友達と一緒に協力して掃除や片付け、ウサギ当番に取り組み、年長としての自覚や責任をもつ。

- ・自分たちで時計を見たり、一日の活動の流れを把握したりして進んで生活する。
- ・グループの友達と相談して役割分担をしたり、道具の使い方を工夫したりして当番活動に取り組む。
- ・身の回りの始末や片付け等「なぜ行うのか」を考え、その良さや必要性を感じながら取り組む。

健康

環境の構成と教師の援助

リズム表現遊び 割遊び

○友だちと一緒に歌ったり、自分なりの表現で踊ったりすることを楽しむ。

○遊びの中で考えた発想を元に学級全体で一つのストーリーを考えたり、劇遊びなどで表現したりして、協同して活動する楽しさを味わう。

- ・いろいろな音楽やリズムに合わせて、身体全体でリズムを鳴らしたり、表現したりする。
- ・楽器を鳴らしたり、自分で楽器を作ったりして音遊びをする。
- ・友達と一緒に詠じ合いながら、楽しかった遊びを振り返ったり、劇ごっこをしたりする。

○描画活動・製作活動

○コンテや絵の具などの描画材料を使って、経験したことを自分なりの表現で楽しむ。

○秋から冬のイメージを広げながら、細かく切ったり貼ったりなど作ることを楽しむ。

いろいろな素材を使って工夫して作ったり描いたりして遊ぶ

○友達と共にイメージを協力して遊ぶことを楽しむ。

○イメージを形るために、発想を広げたり、必要な形のパーツや用具を組み合わせたりして工夫して遊ぶ。

- ・友達と一緒に、並べたり、つなげたり、積み上げたり、高低差を調整したりして遊ぶ。
- ・崩しても直したり、また新たに作ったりして、集中しながら遊ぶ。
- ・友達と一緒に上手くいかせるためにはどうすればいいかを考えて相談しながら遊ぶ。
- ・カッサブチやノコギリなど、安全な使い方を理解して使い、木材を切る、つなげるなどして遊ぶ。
- ・友達と相談して遊びに必要な物を選んで、イメージしたものを作って遊ぶ。

お話タイム

○自分のしていることや気づいたことを友達に言葉で伝え、充実感をもつ。

○友達の気づきや発見に共感したり、自分なりの考えを巡らして新しいあてを見つけたりするなど、次の遊びの意欲をもつ。

- ・遊びの中のおもしろい気づきや感動、できるようになったこと等の喜びを教師や友達に素直に伝える。
- ・自分の遊びを振り返って伝えたり、工夫したことや試行錯誤したこと等を言葉で順序立てて話そうとしたりする。

・写真や「しんぶん」等のポートフォリオを見て、自分の追求や不思議に感じていること、発見したことを話す。また、友達の話を聞いて、自分がどうするかを考えたり、自分なりの方法を生み出したりして、次の遊びに発展させる。

・話すこと聞くことの楽しさやおもしろさを感じることを通して、友達とのかかわりを深める。

「いいこと考えた
あつまれ
みんなのアイデア
おもしろそう
やってみよう」

身近な生き物と触れ合い

○秋の身近な生き物に親しみをもって触れるながら、命あるものの不思議を感じる。

- ・園庭に虫などの小動物が少なくなったことに気付き、飼育図鑑などで生態を調べる等して、大事にかかわろうとする。
- ・生き物に触れるながら、体の特徴や動き等に興味をもち、新たな発見をしたことを絵や文字等で表現する。
- ・わかったことや感じたこと、不思議に思うことを友達と共有したり、一緒に調べたりする。
- ・生き物に名前をつけたり、合板や段ボール等で遊び場を作って遊ばせたりして、心を寄せて遊ぶ。
- ・ことり組の友達に捕まえた生き物を見せたり、捕まえ方や飼育の方法を教えてあげたりする。

秋から冬に向けて季節を感じる自然体験

○園庭に落ちている木の実や小枝、落ち葉などを遊びに取り入れ友達と一緒に発見や驚きを共有する。

○前期間程や後期課程を散策して園内にはない自然を見つけたり、変化に気づいたりすることを楽しむ。

○霜柱や氷等の季節が変化していく様子を見て、不思議に思ったことや疑問に思ったことを、様々な方法で表現することを楽しむ。

・「どうしてだろう？ どうなるかな？」と気付いたことや感じたことに時間をかけて観察したり、その中でわかったことを友達に言葉や絵、地図にして伝えようしたりする。

⇒イメージした作りたいものがなかなかうまく形にできず試行錯誤を繰り返したり、どのように作ろうかとじっくりと考えたりしている場面では、教師も一緒にどうすれば良いのかを考えたり、子ども自身が発想を広げて解決することができるよう聞かせたりして力付け、その過程での子どもの発想する力や篠めないで取り組もうとする経験を大切にする。

□段ボールや空き箱など、いろいろな形や大きさのものを用意し、子どもが自分のイメージに合ったものを選んで作れるようにしておく。

- ・手先が細やかなこともできるようになってきてるので、いろいろな用具を準備することで、子どもがそれを扱い、自分なりの表現で作ったり描いたりを楽しめるようにする。
- ・楽器に触れて、扱い方に慣れるとともに鳴らし方によって音やリズムが変化するおもしろさを感じられるようになる。

⇒お話タイムでは、それぞれの教育的瞬間を丁寧に捉えて、「それでどうなったの？」「なぜだろう？」等、子どもも同士の考へが広がり、話し合いができるよう力付ける。必要に応じて、写真や図等のポートフォリオを使い、子どもの気付きや学びを集めていく。また、一人一人の瞬間や課題を学級全体で共有することで、一人一人が新ためてや探求心をもつきかけとなり、次への遊びが展開していくように力付ける。

☆子どもも同士かかわるのを深めたり、互いの良さが感じられたりするように、話し合いの中で一人一人の発想や工夫をしっかりと認め、子ども達も互いの違いを認め合えるように価値付ける。

環境

⇒園庭で見つけた木の実や小枝など遊びに取り入れていく中で、どのように遊びを発展させようかと考えたり、今の遊びと融合させるために工夫したりする等、さらに直角に向かうように力付ける。

□集めた落ち葉や木の実の形や色の美しさを感じたり、種類の違いに気付いたりできるよう、図鑑や絵本を目に届くところに置いたり、自分達で分類して置けるコーナー等の環境を準備したりする。

⇒☆自然の変化について気付いたことを話したり、図鑑や絵本などを一緒に見ながら興味関心が広がったりするように力付ける。集めたり触れたりするだけでなく、興味関心から作る遊びやごっこ遊び等、いろいろな遊びの中に取り入れて、工夫や試行錯誤する姿が深まるよう支える。

☆子どもが気付いたことに共感したり、受け止めたりして小動物を大切に扱う気持ちに繋げる。また、友達同士で考えを出し合っている場面を捉え、友達とのかかわりを支える。

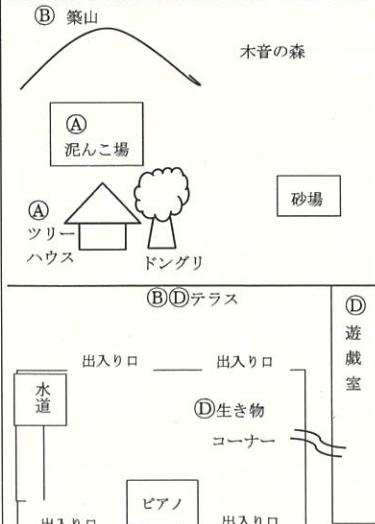
探究のプロセス	①めあて（思いや願いをもつ）	②やってみる（体験や活動）	③考える・試す・工夫する	④満足感を味わう・表現する
<p>泥団子 （土、砂、アスレチック等の遊び）</p> <p>（自然物を取り入れる遊びや「ひとつこ遊び」）</p> <p>虫とのふれあい・遊び場 （身近な自然と触れ合う遊び）</p> <p>「みてみて共有する活動 おはなしタイム」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 園庭のいろいろな土や砂、泥に触れて感触を味わったり、イメージを広げたりする。 「硬くしたい」「さら粉で作りたい」「光らせたい」など、自分なりに作りたい泥団子のめあてをもつ。 さら粉を作りながら「もっとふわふわにしたい」という願いをもつ。 作りたい泥団子コースのイメージをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> 秋の自然物に触れ、感触、形、大きさ、色、匂いなどを感じたり、遊びへのイメージをもち、工夫して取り入れたりする。 いろいろな土の性質やこれまでの遊びの経験を活かして、自分のイメージするチョコレートやクッキーなどのお菓子を作る。 友達が作っているものを見て、自分も作ってみたいと思う。 <ul style="list-style-type: none"> コオロギやバッタ、カマキリ、クワガタなどに興味をもち、どこにいるか考えながら探す。 卵を産んでほしいと願いをもつてオスやメスを探す。 生き物を飼うために、家を作ったり、遊び場を作ったりしようと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな場所の土や砂、泥の性質や遊びの経験を活かして泥団子やさら粉を作る。 友達がしている方法を見たり聞いたりして、自分の遊びに取り入れてやってみる。 作りたいコースをイメージしながら土を掘ったり、泥団子を転がしてみたりする。 泥団子が転がる速さや、止まる場所などに気づく。 <ul style="list-style-type: none"> 土砂泥や秋の自然物を工夫して組み合わせ、オリジナルのお菓子を作る。 友達と作りたいもののイメージを伝え合い、一緒に実現させようとする。 遊びながら友達と一緒にイメージを共有し、一緒に遊びの場を作ったり、遊びに必要な材料を探したりする。 友達に方法を聞いたり、友達のしていることを見たりして作る。 <ul style="list-style-type: none"> 生き物の名前やどんな家がいいのか、何を食べるのかなどについて、図鑑で調べたり友達に聞いたりする。 名前をつけ、親しみをもって触れる。 体の様子や動きの特徴を拡大鏡で見ながら感じたり、気付いたりする。 身近な材料を使って、友達と一緒に家や遊び場作りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 作りたいと思う泥団子作りの方法や、ひびを直す方法、より細かいさら粉を集めるための方法など、オリジナルのやり方を考えて試す。 泥団子が下まで転がるように、試行錯誤しながらコースを掘る。 面白いコースや難しいコースにするためにどうするといいかを考えて工夫する。 友達と一緒に作りたいコースのイメージを共有し、考えたり工夫したりする。 身近な材料を使って、友達とコースを作る。 <ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒にイメージを共有しながら、実現に向けて、一緒に考えたり工夫したりするなど、試行錯誤する。 友達と遊びに必要な役割分担をし、協力しながら遊ぶ。 「どんなお店にしたいか」「お客様に喜んでもらうためにはどうすればよいか」などについて友達と相談し、新たに工夫したり場を整えたりしながら遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> 家の中に何を入れるといいかを考えたり、作りたい家のイメージを広げて工夫したりしながら作る。 何を食べるのかを調べたり、実際に食べるか試したりする。 大きさや体の仕組みなど、図鑑にあることを友達と確かめる。 考えたり発想したことを、友達と試行錯誤しながら実現しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「硬くしたい」「まん丸にしたい」「黒くしたい」など、自分が作りたいと思った泥団子が出来る。「泥団子美術館」で友達に見せる。 より細かく柔らかいさら粉を作り、友達に認めてもらったり、それを使って新たな工夫をしたりする。 イメージして作ったコースで泥団子を転がしたり、友達を呼んだりして遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> 工夫したことや発想したことを持ちかして作ったものを友達に認めてもらう。 お客様が来ることや実際のお店をイメージしながら、遊びの場を飾ったり整頓して大切にしたりする。 お店の人になりきって、お客様とのやりとりを楽しむ。 学級の友達だけでなく、年少組の友達やおうちの人にも来てもらうことを喜ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> 考えたり工夫したりして作った家で、生き物を飼育する。 調べたり、試してみたりしてわかったことを、友達に言葉や文字、絵などで伝える。 工夫して作った遊び場で生き物を遊ばせ、友達と楽しさや面白さを共有する。
遊びのめあてやイメージを意識化・意欲づけ 友達の遊びへの思いを共有				遊びの発想や工夫、思いを共有⇒協同する姿へ 試行錯誤の共有⇒「こうしたらいいんじゃない？」新たな発想へ

本日の展開

ねらい ○自分の発想を友達に伝え、相談したり役割分担をしたりして協力して遊ぶ。 ○いろいろな材料な素材の特性を活かし、自由に発想し工夫して作ったり試したりして遊ぶ。

5歳児そら組 担任 木村 ひさ 松本 佳奈

8:35 登園	<ul style="list-style-type: none"> 朝の挨拶を交わしながら温かく迎え入れ、落ち着いた気持ちで一日がスタートできるようにする。今日の遊びに期待をもてるように声をかけながら、コミュニケーションをとっていく。
9:05 げんきっこタイム	<ul style="list-style-type: none"> 体幹を整える体操 なかよしペアダンス
9:30 見つけた遊び	
10:30 片付け	
11:00 学級で共有する活動	
11:30 弁当・歯磨き	
12:30 降園準備	
13:00 「いいこと考えた	<ul style="list-style-type: none"> あつまれ みんなのアイデア おもしろそう やってみよう
13:40 片付け	
14:00 学級で共有する活動 (おはなしタイム)	



14:30 降園

予想される幼児の活動	[□環境の構成 教師の援助 (・共感する、見守る ○意味付け ☆価値付け ⇒力付け)]
<p>①ごっこ遊び（スペシャルイオンごっこ、クッキー屋さん）</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージしたチョコレートやクッキーを作るために、様々な質感の土や砂、木の実などの自然物を混ぜ合わせたり、形を作ったりする。 硬くなった泥団子や木の実を削り、それを使って混ぜて試したり、ごちそうを作ったりする。 友達と相談しながら役割分担をし、店の店長、パティシエ等の役になりきって注文を聞いたり、チョコレートなどを作ってもてなしたりする。 友達と考えを出しながら店に必要な看板やチケット、メニュー表を作る。 お店をもっと素敵にしたい気持ちや、お客さんに喜んでもらいたいという気持ちをもち、飾り付けする。 手作りのチケットを配りながら、友達やこどり組、先生等をお客さんとして呼び込む。 <p>□友達と思いや発想を出し合い、それが実現できるよう用具や材料（自然物や土、泥など）を共に探したり、種類ごとに分類したりして、子ども達が自分で必要な物を選べるようにしておく。</p> <p>☆子ども達が、様々な土や砂の特性を生かしてオリジナルのチョコレートやクッキーを作り、その中でその子らしい発想や友達同士で発想を組み合わせる姿を捉え、共感する。また、チケットのポイント制や“びっくりチョコレート”などの細かいところの工夫や発想を認めていき、驚いたり感心したりして価値付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達と共に遊びを作り上げていくおもしろさや嬉しさに気づいていくよう、遊びが発展しそうな機会を捉え、問い合わせたり共感したりして、今後の遊びに見通しをもたせる。 友達と一緒に、お互いの考えを出し合って遊びを進めいく姿や、友達のアイデアを取り入れたりしている姿を認めていき、イメージを共有して遊び楽しさを感じることができるように写真をとり、後で全体に共有する（ポートフォリオにする）。 <p>⇒それぞれのアイデアを共有して友達とかかわりながら遊べるように、「人気店にするためにはどうやったらいいのかな？」と問い合わせ、子ども同士で考えを出し合えるようにしたり、必要に応じてヒントを与えて、ゆさぶったりしていく。</p> <p>②身近な生き物と触れ合う遊び（カマキリアスレーチック作り、コオロギの家作り）</p> <ul style="list-style-type: none"> カマキリやウマオイ、コオロギなど部屋で飼育している生き物に思いを寄せ、餌を見つけて与えたり、住み心地を考えながら飼育ケース中の土や草、枯れ葉の状態を確認し、必要に応じて新しいものに取り替えたり整えたりする。 木枠や段ボール、空き箱などの様々な素材を使ってカマキリやコオロギの家や遊び場を作る。 友達と相談して、「カマキリは高いところへ登っていく」「コオロギは陰のある場所にいる」等生態を捉え、それに合った家や遊び場作りを工夫する。 友達やこどり組に小動物を飼育してわかったこと（餌、住処、特徴、捕まえ方等）や気付いたことを絵や言葉にして伝える。 <p>⇒気持ちを寄せて世話をする姿を認め、「どうしたら喜ぶかな」「今どんな気持ちなんだろうね」など声をかけることで、より愛着をもつたり命を大切にしようという気持ちをもつたりしながら触れ合えるようにする。</p> <p>□生き物の家や遊び場作りに必要な木枠や段ボール、空き箱等を子どもと一緒に準備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> →家作りや遊び場作りで、生き物の生態を捉えながら、仕掛けを考えたり、工夫して作ったりする姿を価値付けると共に、「どうしようと思っている？」と問い合わせて考えを引き出したり、友達と相談しながら遊びを進められるように言葉をかけたりして支える。 <p>☆異年齢の友達とのかかわりで、優しく接したり教えたり手伝ったりする気持ちを価値付ける。</p> <p>□わかったことを他の友達にもわかりやすく伝えられるように、絵等にして表した時には、「いきものしんぶん」に掲示していく。</p> <p>片付けをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなで力を合わせ、遊んだ場を整え片付ける。 <p>みてみてきておはなしタイム</p> <ul style="list-style-type: none"> 工夫したこと、新しい発想、友達と協力したこと等をみんなに話したり、ものを見せたりして伝える。 友達の話を聞いて思ったことや考えたことなどを話し、友達と思いを共有する。 	<p>⑧泥団子を作る・泥団子アスレチックを作って遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「こんな泥団子が作りたい」「～するために泥団子を作ろう」という自分なりのめあてをもち、必要な土や泥を選んだり、作り方を工夫したりして泥団子作りをする。 友達と一緒に泥団子転がしを作る。友達と一緒にあみだくじのようなコースをイメージし、話し合いながら工夫して作る。 コースをもっとおもしろくするために、高低差を活かして穴を掘ったり、仕掛けの箇所を考えたりして、試行錯誤しながら作る。 転がした泥団子が壊れたら、「壊れないためにはどのような泥団子がいいのか？」をじっくり考えたり、違う作り方を試したりして、発想を広げながら遊ぶ。 友達の作っている泥団子や転がしコースを見たり作り方を聞いたり、または自分の方法を伝えたりして、「もっとおもしろいコースを作りたい」という気持ちをもちながら遊ぶ。 泥団子を転がして、友達と早さや最後までゴールで到着できるかを競争しながら遊ぶ。 <p>□泥団子作りで、その子なりの「硬い団子」「ツルツルの団子」の願いを達成させるまで試行錯誤しながら工夫して作れるように、泥んこ場の土を耕したり、水分を含ませたりして、さまざまな質感が出るようにしておく。</p> <p>⇒泥団子にひびが入る等、なかなかうまくできない時には、友達に聞いてみることを促したり、「どんな方法が他にあると思う？」と問い合わせて違う方法で発想を切り替えたりするよう力付ける。</p> <p>☆試行錯誤したり工夫したりしながらコース作りができるように、自分達なりにコースを考えたり、工夫して作ってみたりする姿を「ガタガタするコースもおもしろいね」「みんなが楽しめるコースになってきたね」と具体的にはめる。</p> <p>⇒○工夫している姿や発想に共感し、「どんなコースにしてみたいと考えているの？」「どんな転がり方をしたらおもしろいかな？」等とめあてが明確になるように声をかけ、意欲的に遊べるようにする。</p> <p>⑨体を動かす遊び（縄跳び鬼ごっこ、縄跳びに挑戦する）</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒にルールを考えたり、チーム分けや役割分担をしたりして、思いや考えを伝え合いながらリレーごっこや鬼ごっこをする。 縄跳びは、「後ろ跳び30回跳びたい」「二人跳びに挑戦しよう」等自分のめあてをもち、いろいろな技に繰り返し挑戦する。 <p>☆⇒縄跳び鬼ごっここのようなルールのある遊びでは、お互いが楽しく遊ぶためにどうするといいかを子ども同士で考えられるよう力付ける。言葉で伝え合いながら自分達でルールを考えていけるように見守り、必要に応じて、子ども達の考えを整理したり、思いを言葉で表出する支えをしたりする。</p> <p>☆友達と一緒に体を動かして遊ぶ楽しさや気持ちよさ、充実感を味わっている表情や言葉を価値付ける。</p> <p>☆⇒チャレンジカードを使って、自分なりのめあてをもつ姿や、少しでもできるようになつていてく姿を具体的に認める。また、新たなめあてに向かえるよう力付けることで、自信がもてるようになる。</p> <p>☆友達のできるようになりたいという思いを共有し、頑張る姿を応援したり、自分なりのやり方を教えたりする姿を価値付ける。</p> <p>⇒粘り強く挑戦しようとする意欲がもてるよう、思うようにできない時の悔しい感情を受けとめて励ましたり、できそうなことから少しずつやってみるよう言葉をかけたりする。</p>